

ボラマガ

～ボランティアセンターマガジン～

平成27年12月15日号

第27号

発行 社会福祉 神栖市社会福祉協議会 ボランティアセンター
法人

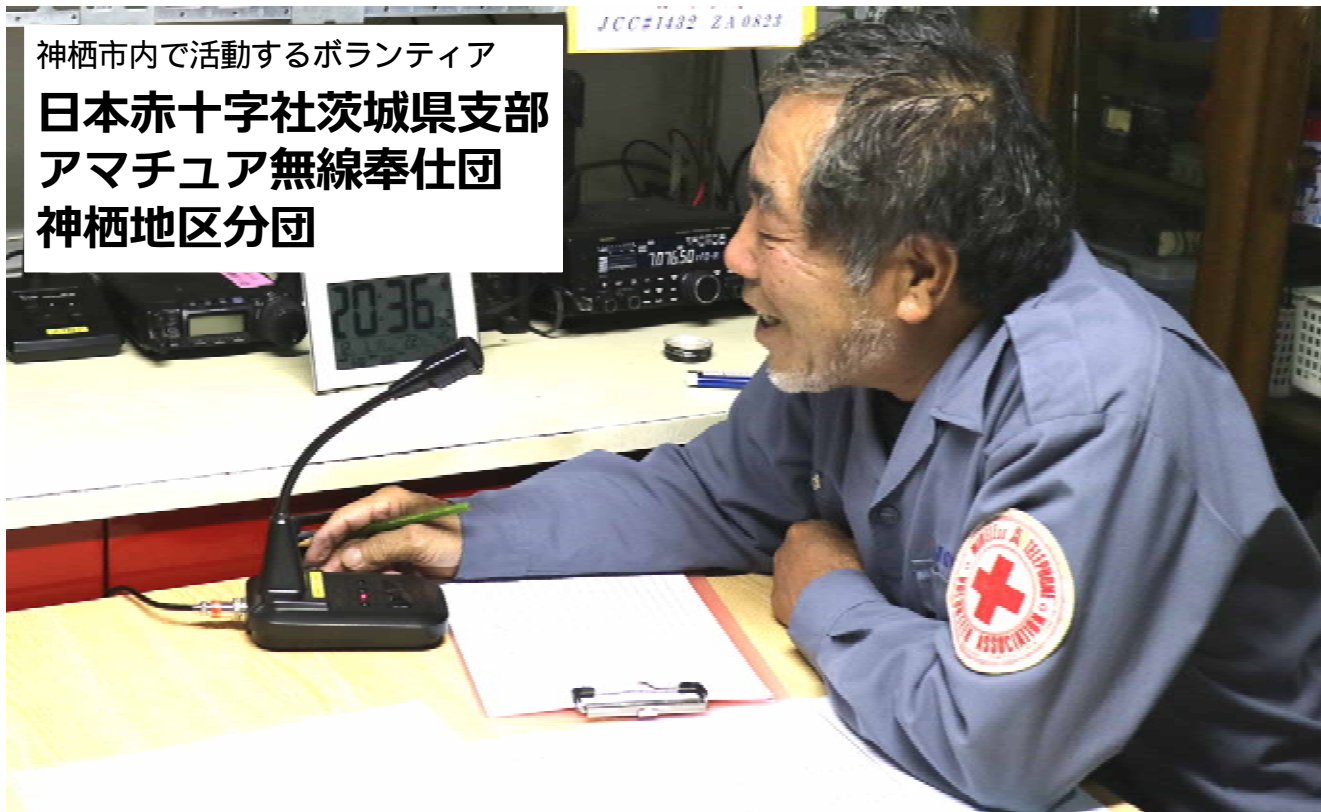
〒314-0121 神栖市溝口1746番地1

TEL : 0299-93-1029 FAX : 0299-92-8750

ホームページ <http://www.kamisushakyo.com/vc/>

※ホームページでは、この広報紙に掲載している写真をカラーでご覧になれます

メールアドレス mail@kamisushakyo.com



「こちらJQ1ZLV、ロールコールをしています。」毎週火曜日、午後8時30分から日本赤十字社茨城県支部アマチュア無線奉仕団神栖地区分団（以降、神栖地区分団）のロールコールが始まります。

ロールコールとは、電波を使った点呼で、仲間の近況や体調の確認と、それぞれが保有する通信機器の動作確認を目的として行われます。それぞれのアマチュア無線局を識別するための世界中でただひとつの符号があり、“JQ1ZLV”は、神栖地区分団の社団局（団体が開設するアマチュア局）を表します。

「今年も残すところあとわずかになりました」「寒くなったので、体に気をつけて温かくして過ごしてください」相手が話し終わるのを待ち、自分が話し始める、温かい会話が続きます。

アマチュア無線の利点

神栖地区分団は昭和62年4月設立、会員数は現在28名です。災害時における非常無線通信活動およびその訓練を目的とする、日本赤十字社茨城県支部の一部門となるボランティア団体です。

災害時における無線の利点は、お互いの通信機器間で直接通信をするため中継局を必要としないこと、不特定多数の人に情報発信ができることです。携帯電話は、通話する人が急激に増えれば回線がパンクしてしまいます。固定電話やインターネットは、災害によって中継局が破損したり、そこまで延びる回線が切れたりしてしまうと、通信することができなくなります。

無線には、携帯電話やインターネットが普及した現在でも、自動車や発電機から電源を取ることが出来れば稼働し、被災状況や必要物資などを、遠く離れた不特定多数に情報発信できるという、他の通信手段にはない強みがあります。

裏面に続く

災害時の活動

東日本大震災発生時、神栖地区分団は無線という分野に限らず災害ボランティア活動をしました。右の写真は、神栖市の震災ゴミ受入場で、搬入をサポートしている様子です。チームワークを活かし、車を誘導したり、震災ゴミの運び出しの手伝いをしたりしてくれました。

楽しむからこそ、活動が続けられる

アマ無線の楽しみについて何うと「それぞれの楽しみがありますが、まだ自分が出会ったことのない人と、海外であっても電波でつながり、話すことができること。」とメンバーの石黒さんは話します。

「楽しみがなければ、長く活動が続けることはできません。楽しみながらも、災害時には無線で役立てるという思いを胸に、日々活動しています」と代表の蔦^{つた}さんは話してくれました。

今回取材でお話をうかがった皆さん、アマ無線を趣味とするだけではなく、共通の趣味を持つ仲間同士の会話を楽しんでいる様子をうかがうことができました。



震災ゴミ受入所での活動



この日、お話をうかがった4名。前列が蔦さん夫妻。後列左から井上さん、石黒さん

日本赤十字社茨城県支部アマチュア無線奉仕団神栖地区分団では一緒に活動して下さる方(アマチュア無線有資格者)を募集しています。
お問い合わせは 事務局 井上まで 電話0299-96-6632

★報告★ 輝くための“男”の講座を開催しました！

定年退職した男性の、セカンドライフの充実を目的として開催した『輝くための男の講座』に、9名が参加し、男性の趣味として注目されているDIYや料理を体験しました。

仕事一筋だった参加者のほとんどは、趣味の講座に参加するのも初めてです。最初は緊張の面持ちでしたが、ユーモアたっぷりの講師の話術に緊張の糸もほぐれ、同年代ということもありお互いすぐに打ち解けました。講師の熟練の技に感動しながらも、技を盗もうとするその眼差しは真剣そのもの。いきいきと汗をかいて体験する中で、男たちはさらに輝きを増していきました！

参加者からは「3日間の講座はとても楽しく、良い体験が出来た」「チャレンジして面白かった」と感想があり講座に満足した様子です。講座終了後に開催した交流会の中で、参加者同士「体験で学んだことを活かし、何か社会貢献ができるといいね！」と意気投合しました。この講座で出会った新たな仲間と一緒に、現在、毎月1回交流サロンに集まり自分たちに出来る活動を模索しています。

1日目 10月2日(金)

網戸の張り替えにチャレンジ！

講師：神栖市シルバー人材センター会員
藪田紀仁氏、渡會浩好氏



2日目 10月14日(水)

まな板づくり ～かんなの使い方～

講師：神栖市シルバー人材センター会員
渡會浩好氏(元建具職人)



3日目 10月28日(水)

そば打ちに挑戦！

講師：二八そば越後
店主 水島義治氏、水島文夫氏



シリーズ

おじゃまします♥ わくわくサロン ~2つのサロンが5周年を迎えました~

わくわくサロン大潮 編

明神前地区

「身近な場所に、高齢者が気軽に集まれる場所をつくりたい」そんな思いから立ち上がった『わくわくサロン大潮』が、10月3日(土)、5周年を迎えました。

会場である明神前区民館に入れば、楽しそうな笑い声が聞こえてきます。まずは、全員で口を大きく開けての発声練習し、顔を自分でマッサージします。気持ちが盛り上がったここから芸達者揃い『大潮』の本領発揮です。市民音頭で景気をつけ歌あり、踊りあり、手拍子あり。全体がひとつになって、みなさん心からサロンを楽しんでいる様子が伝わってきました。

この日の参加者は38名。「こうしてみんなと会えるのがとっても楽しみだよ。」参加者の1人が嬉しそうに話してくださった時の笑顔が印象的でした。



友愛サロン 編

溝口地区

10月5日(月)、溝口集落センターの玄関には、ダリアの花とススキが飾られ、参加した22名を出迎えました。

この日、5周年を迎えた友愛サロン。お祝いに、大きな紅白餅が参加者へ配られました。さらに、ボランティアによるギターとハーモニカの生演奏に合わせ、参加者たちが市民音頭を元気に歌うと、うちわを片手に女性ボランティアが踊り、5周年を盛大に祝いました。

サロンが終わると、恒例の握手(右写真)をします。ボランティアが参加者ひとりひとりの席をまわって、手を握りながら、笑顔で「来月も待っているからまた来てね!」と声を掛け、さよならをします。毎月の心温まるふれあいに、サロンが5年間続いている秘訣を見ることができました。



サロンは、家に閉じこもりがちな地域の高齢者や障害者、子育て中の親子などが身近な場所に集まって気軽に楽しい時間を過ごす活動です。神栖市社協では、わくわくサロンづくりと運営のお手伝いをしています。

お問い合わせは 神栖市社協 神栖本所 0299-93-1029(担当:下田) 波崎支所 0479-48-0294(担当:横田)まで

お知らせ



子育てサロン 子育てふれあい広場『ひよこ』

子育てふれあい広場ひよこは、親子体操や手遊び、ママ同士で育児の情報交換などをしながら、楽しい時間を過ごしています。ぜひ、お子さんと一緒に遊びに来て下さい。(事前申込み不要)

◆日 時：平成27年**12月17日(木)**、平成28年**1月21日(木)** 10:00~11:30

◆場 所：市保健・福祉会館 集会室B ◆参加費：無料 ◆対象者：子育て中の親子(年齢は問いません)

【お問い合わせ先】★保育サポーターひよこ 代表:田中 TEL 0299-93-0603

★ボランティアセンター 担当:下田 TEL 0299-93-1029



ボランティアセンターマガジン | 3

集めて、送って 役立つ ボランティア

誰もが身近で取り組みやすいボランティア活動として、使用済み切手やプリペイドカード等の「収集ボランティア活動」があります。年末年始の時間を利用して、みなさんも取り組んでみてはいかがでしょうか。下記の物品はボランティアセンターで受け付けています。

■使用済みの切手やカード（テレフォンカード、図書カード、クオカード等）



使用済み切手、カードは市町村社協を經由して茨城県社協に集められ、専門業者等が買い取ります。そのお金が茨城県ボランティア基金に積み立てられ、県内のボランティア活動支援に活用されます。※切手は周囲5～10mmの余白を空けて切り取って下さい。

■書き損じハガキ（通常のハガキ、年賀ハガキ等）



書き損じハガキは、「空飛ぶ車いす」の活動支援をしている（公財）日本社会福祉弘済会に送られ、切手に交換されます。協力企業がその切手を購入することで換金され、車いすの修理部品代や輸送費として活用されます。

「空飛ぶ車いす」とは・・・使われなくなった車いすを修理・再生し、車いすが不足している国々に贈る、全国的に展開されている活動です。神栖市ではボランティアサークル「空飛ぶ車いすin神栖」が車いすの修理を行っています。

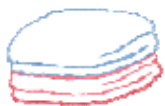
■ベルマーク・使用済みインクカートリッジ



2,000種以上の商品についているので、普段の買い物でも自然に集まります。1点が1円に換算され、教材備品を購入することができます。使用済みインクカートリッジ（エプソン、キャノン、ブラザー純正品に限る）は、1個につきベルマーク5点となります。

神栖市では、ベルマーク仕分けボランティアが仕分け・集計を行い、東日本大震災の被災校の教材や備品の購入に役立てられています。

■タオル、布（未使用のもの）



市内の障害者施設へ送られます。障害者施設ではタオルや布を加工して販売しています。その収益金が障害者への報奨金や施設の活動資金として活用されます。

※色や柄、会社名等が入ったものでも構いません。

神栖おもちゃ修理ボラ ～大切なおもちゃを直します～

「神栖おもちゃ修理ボラ」は、“ものを大切にする気持ち”を伝えたいとの思いから、定年退職したお父さんたちが、長年培った技術を活かしておもちゃ修理の活動を行っています。幼稚園や保育園、児童館などで使用しているおもちゃも修理します。お気軽にお持ち下さい。

◆日 時：毎月第1月曜日 午前10時～12時

※上記活動日以外にも事前にお預かりできます。

※1月の活動日は、12日(火)になります。

◆場 所：神栖市保健・福祉会館 2階 交流サロン

◆費 用：作業料は無料 ※部品代のみ実費

◆問合せ先：ボランティアセンター神栖本所(担当:下田) TEL 0299-93-1029

※修理方法等、依頼者と相談しながら進めますが、破損や摩耗等の状態によっては修理できない場合があります。また、修理中におもちゃが故障してしまった場合の補償はいたしかねます。ご了承下さい。



受渡し時の笑顔が次の活動への活力へ繋がります！



今年もボランティアセンターマガジンを見ていただきありがとうございました。今後も市内のボランティア情報をたくさん盛り込んだ内容で発行していきたいと思っております。皆様、よいクリスマスをお過ごしください。

